



社会運動の再生にむけて

韓国の市民・女性・労働運動から学ぶ vol.2



社会を変えた韓国のダイナミズム ー対立から参加型ガバナンスへー

2021年 **1月14日** [木] 18:00～21:00

ガイダンス 桔川純子 (明治大学)

「革新政策から社会革新へ～ソウル市革新10年」 ユ・チャンボク 柳昌馥 (未来自治分権研究所所長)

「市民運動の連帯とソーシャル・イノベーション」 イ・スンファン 李承勳 (市民社会団体連帯会議 事務処長)

日本側からのコメント

質疑応答 (同時通訳あり)

2016年から2017年にかけて、韓国で開かれたろうそく集会のエネルギーは、韓国社会のダイナミズムを体現し、韓国の活動家がよく引用する「一人で見る夢は夢でしかない。しかし誰かと見る夢は現実になる」ということばを実証するかのようになり、政権交代を実現させました。それまで社会運動の中心だった市民団体は、連帯しながらも、ろうそく集会では裏方にまわり、「このままでは自分たちの生活が政治によって破壊される」という危機感をもった多くの市民の思いを可視化するハブの役割を担いました。

文在寅政権を誕生させた市民は、政権の舵取りをチェックし、ときには協力し、ときにはNOを突きつけています。新型コロナウイルスが世界を席卷するなか、積極的な「K防疫」を進めることができたのは、そのような市民の存在があってこそでした。

政治の場で、地域社会で、自律的な市民の営みが広がってきたのは、2011年からソウル市が推進した「マウル共同体総合支援事業」の蓄積と、その延長線上にある協治(参加型ガバナンス)の政策が基盤にあったからです。 ※マウル:韓国語で、まち、村の意味

今回、社会運動のハブとして、全国の市民団体の連帯の要である市民社会団体連帯会議のイ・スンファン事務処長と、ソウル市の参加型ガバナンスを構築してきたユ・チャンボク元ソウル市協治諮問官に、これまでのプロセスと、その戦略についてお話しいただきます。



ユ・チャンボク (柳昌馥)

未来自治研究所所長、聖公会大学兼任教授
元ソンミサン学校設立委員長・教頭
元ソンミサン劇場代表、元ソウル市協治諮問官



イ・スンファン (李承勳)

市民社会団体連帯会議事務処長・尚志大学校兼任教授
2016年総選挙市民ネットワーク事務処長
元大統領直属3・1運動及び大韓民国臨時政府樹立100周年
記念事業推進委員会委員

[オンライン開催] Zoomウェビナーによるオンライン開催となります。

[申込先] 一般社団法人 生活経済政策研究所 <http://www.seikatsuken.or.jp/> HPの登録リンクからお申し込みください。

[参加費] 無料

※ご不明な点があれば、03-3253-3772 e-mail: daimon@seikatsuken.or.jp までお問い合わせください。

